

9-2			
主題	管理栄養士が中心となって取り組んだ地域貢献事業 施設の「食」のノウハウを活かした来食サービスの展開		
法人名	社会福祉法人 台東区社会福祉事業団		
事業所名	台東区立みのわ高齢者在宅サービスセンター		
発表者（職種）	横田きよ子（管理栄養士）		
共同研究(実践)者	佐藤親資（生活相談員）		
電 話	03-5603-2231	FAX	03-5603-2232
今回発表の 事業所やサー ビスの紹介	みのわ高齢者サービスセンターの地域交流事業として地域向けのレストラン を実施していた。今回、施設の管理栄養士が中心となり、地域向けレストランを 見直し、地域貢献事業として来食サービス（いきいきランチ）を開始した。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

施設の利用者と地域の人との交流を目的としたレストランを実施していたが、求められている機能を発揮していない状況であった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

- ・地域に還元できるように、レストランスペースの有効活用と施設の高齢者への給食提供のノウハウを地域高齢者に活用する。
- ・配食サービスやデイホームの利用はしたくないが、外で昼食が食べられ、人と交流する場のニーズが必要という仮説。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・地域の高齢者を対象とした、特養とデイに提供している昼食の提供。
- ・事前に登録していただき、曜日ごとの申し込みとし、各人の生活パターンに合わせた利用ができるように設定した。

《4. 取り組みの結果》

- ・孤食で栄養バランスの欠如していた高齢者に会食の機会とバランスの取れた食事の提供ができた。
- ・来食サービスの利用者と管理栄養士、厨房職員等との顔なじみの関係の構築できた。

《5. 考察、まとめ》

- ・来食サービスを利用することにより、生活にメリハリが生まれ、栄養を補給するだけでなく利用者同士の交流ができており、利用者にとっては楽しみの場になっている。
- ・利用率に関しても、天候等に左右されることなくかなりの高比率で利用して頂けている。都合の悪い日に関しては、事前にキャンセル連絡がいただけており、無駄のない運営ができています。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

聖風会グリーンハイム荒川 週間献立表
聖風会グリーンハイム荒川 来食開催チラシ

《8. 提案と発信》

ただ、食事を提供するだけでなく、管理栄養士と地域の高齢者が、「来食サービス」を通じて日々、係わり合いを持つことで、「食」を通して地域の高齢者の在宅での毎日の生活を支えていく一つになることができる。また、地域の高齢者と施設との交流の場となり自然と顔なじみの関係が構築できる。